



写真提供：国立科学博物館

百年前のツクシイバラの標本

正六年、植物学者である前原勘次郎氏が旧球磨郡上村（現あさぎり町上）にて「ツクシイバラ」として標本を採取したのがこの花が歴史に登場した始まりです。その後、幾度の学名変更により現在は「ツクシイバラ」として親しまれています。発見当初から非常に稀な種として報告されていました。しかし河川環境の変化や盗掘により、一時は熊本県のレッドデータブックに掲載されるも、地元有志による保存会「球磨川ツクシイバラの会」の手厚い保護活動により、現在は錦町とあさぎり町の球磨川河川敷一帯にピンクの可憐な花姿を見ることができるようになりました。ツクシイバラの群生地は全国でも珍しいことから、錦町では町の花に指定しています。県外のファンも多く、開花時期には多くの見学者が訪れる、愛されている野ばらです。

大

正六年、植物学者である前原勘次郎氏が旧球磨郡上村（現あさぎり町上）にて「ツクシイバラ」として標本を採取したのがこの花が歴史に登場した始まりです。その後、幾度の学名変更により現在は「ツクシイバラ」として親しまれています。発見当初から非常に稀な種として報告されていました。しかし河川環境の変化や盗掘により、一時は熊本県のレッドデータブックに掲載されるも、地元有志による保存会「球磨川ツクシイバラの会」の手厚い保護活動により、現在は錦町とあさぎり町の球磨川河川敷一帯にピンクの可憐な花姿を見ることができるようになりました。ツクシイバラの群生地は全国でも珍しいことから、錦町では町の花に指定しています。県外のファンも多く、開花時期には多くの見学者が訪れる、愛されている野ばらです。

自然体が美しい

Nishiki



群生するツクシイバラ

力強い枝葉を自由奔放に伸ばし、可憐な花と芳香を楽しませてくれる。見頃は5月下旬。



尺鮎の塩焼き

豊かな球磨川のみずみずしい苔を食した、30cm 越えの鮎。香ばしさの中に、爽やかな薫りが鼻腔をくすぐります。

南九州独特の貴重な野ばら

ツクシイバラ

球磨川

球磨の恵の源

人

吉球磨の食と文化を支え、歴史に寄り添い続けてきた球磨川。



夕暮れの球磨川

毎日違う表情を見せる球磨川。ダイナミックな自然の美しさを実感できます。



Nishiki Life
Spring
四季を慈しむ
光・風・季節の匂いを楽しみ尽くす。それが、錦流。

球磨川はこの地域に住む人たちの心の拠り所となる、神聖で偉大で、そして包み込むような優しさを持つ川です。霊峰市房から流れ出た清流は、田畑を潤し、川魚を育て、私たちの生活に文字通り「恵」をもたらし続けています。四季で違う表情を見せる球磨川は、今でも人々の生活に密着しています。春には河川敷に咲き乱れる「ツクシイバラ」、夏にはその流れの清涼さに暑さが和らぎ、秋にはスキと夕日をその水面に映し、冬には辺りを幻想的に包み込む霧。球磨川は、一年を通してその存在感を感じさせる川です。